深伊沢小学校　校内研究実施報告書

１　研究主題

研究主題	人とのかかわりを大切にし、主体的に学びあう子どもの育成 ～コミュニケーション力を高め、学びの深まりをめざした授業～
教科・領域	全教科・全領域

２　研究の経過

	時期	取　組　内　容
一学期	4／18（木）、19（金） ４／２２（月） ５／１３（月） ５／２９（水） ６／１０（月） ７／２３（火） ８／２８（水）	**＜全国学力学習状況調査・みえスタディ・チェック実施＞** 【第１回全体研修会】 ・昨年度の成果と課題、今年度の方向性、ICT 研修 【第２回全体研修会】 ・みえスタディ・チェック、学調分析 【第３回全体研修会】 ・６年授業研究（事前研） 【第４回全体研修会】 ・６年授業研究（５限目） 【第５回全体研修会】 ・第１回子どもの生活を語る会（人権研修） 【第６回全体研修会】 ・特別支援教育、学力調査の分析と改善策（PDCA）
二学期	１１／１１（月） １１／１８（月） １２／１８（水）	【第７回全体研修会】 ・４年授業研究（事前研） 【第８回全体研修会】 ・４年授業研究（５限目） 【第９回全体研修会】 ・ICT 教育、プログラミング教育研修会
三学期	１／２９（水） ２／１２（水） ３／５（水）	【第１０回全体研修会】 ・低学年授業研究（事前研） 【第１１回全体研修会】 ・低学年授業研究（全体研） 【第１２回全体研修会】 ・第２回子どもの生活を語る会（人権研修） ・今年度の研修の反省と来年度の方向性

３　成果と課題について

成果・良かったこと・・・・○　　課題・問題点・・・・・・・・△
そのための対応策・変えたいこと・アイディア・・・・★

1　研究内容及び方法

1　学びあいを軸とした授業づくり

（1）【聴き合い・話し合う活動の工夫】

①　学び合いたくなる場面の設定

○自分で選んだ協働学習の相手やグループ、ペアなど、友達と学び合う場の設定を意図的に教師が授業の中に多く取り入れていた。
○自信がない子たちが、協働の相手を選べることは心強く意欲につながった。
○低学年でも授業の最初に見通しをもたせるために、流れを提示できたのがよかった。
○低学年のうちは、自分での課題の設定は難しいため、選択させることも必要になってくる。
○高学年では、子どもたちに選択の場を与えることで、主体的に学習する姿につながった。
△ルーブリックや課題については、協働学習の範疇の設定が難しかった。

②　授業形態や内容の工夫

○協働に向けて担任がペアやグループを決めるのではなく、誰とでも話すことができる練習をしておくのは大事だと思った。
→まずは授業規律をしっかりとした上で行う。人数が多いと難しい。
○子どもたちは、協働は喜んで取り組んでいる。一人でやってもよいところがいい。
○単元内の自由進度学習は準備の大変さや難しさもあるが、子どもたちが自ら学びを進めていく有効な学習形態だと感じた。

③　聴き合い、話し合う姿勢（コミュニケーションの基盤となる力）について

本校でめざすコミュニケーションの基盤となる力

１・２年	３・４年	５・６年
■ 聴く力 話している人の方を向いて、終わりまでしっかりと聴く。	■ 聴く力 自分の思いや考えと比べ、大事な事を落とさないようにうなずきながら聴く。	■聴く力 共通点や相違点を考え、内容を正確に理解しながら、反応して聴く。
■ 話す力 自分の思いや考えを理由づけてはっきりと話す。	■ 話す力 自分の思いや考えを相手に伝わるように、順序立てて内容を整理しながら話す。	■話す力 目的や場に応じて、伝え方を工夫し、互いの立場を尊重しながら、自分の思いや考えを的確に話す。
■ 書く力 順序を整理して、自分の思いや考えを正しく、ていねいに書く。	■ 書く力 自分の思いや考えをつなぎ言葉や適切な用語を使って書く。	■書く力 自分の思いや考えを適切な用語を用いて簡潔に、筋道立てて整理して書く。

（２）　【めあての設定とふり返り】
①めあての設定・提示について
〇前時の学習と絡めながら、本時のめあてを子どもたちに考えさせる時間もあった。

②　めあてに正対したまとめやふり返りについて
△ふり返りの時間が取れないこともあった。
△協働的な学びを進めていくと、「めあて　まとめ　ふりかえり」について、最終的に一人ひとりが異なるものになっていく（「自分のめあて　自分のまとめ　…のように」）のではないか。それらを自分で考えていける力を低学年から少しずつつけていくことが必要になってくるように思う。
〇ふり返りの時間が十分にとれず、ここだけは書いてと部分的に書かせたこともあった。慣れるまで宿題にしたこともあった。

（３）【興味・関心を高め、学びを深めるための教材・教具の工夫】
〇キャンバ（新聞作りなど）やパドレット（鑑賞など）、オクリンクプラスを活用することができた。
〇オクリンクプラスは、すぐに共有できるのでよかった。
〇△スプレッドシート等に一人ひとりの考えや意見などを打ち込み、クラスで共有するスタイルは、多様な視点で学習でき、有効である。一方、読んで理解する力に弱みのある児童にとっては情報も多く、眺めて学習したつもりになっているところもある。
△ICT の有効活用には、ICT 支援員の活用と教職員間での情報共有とチャレンジが大切である。

２　学びを支える基礎学力の定着

（１）　【モジュール学習】
△３～６年生で毎朝 10 分間の国語タイムを確保することは現実として難しかったのではないか。

（２）【プリント学習（年３回）】
〇「寺子屋プリント」を活用することで、印刷の手間が省けた。
　また、終わった枚数分、シールが貼れることで意欲の向上にもつながった。
〇学習ボランティアに来ていただけることはありがたい。奇数・偶数学年と分かれたことで、ボランティアが少なくても対応してもらえて、よかった。

（３）【家庭学習の定着】
〇毎学期、鈴峰中学校区の学校と連携して２週間の強化週間を設け、全学年チェックができた。
〇自主学鉛筆を取り入れることで、すすんで自主学に取り組む子が増えたが、一部のメンバーに偏りがちではあった。
〇家庭学習強化週間に向けた事前のレベルアップシートの活用により、メディア時間を少しでも読書や自主学時間に充てようとする子が増えた。
△月曜日の提出率が悪かった。
〇自主学習のスケジューリングのためのシートに取り組ませることで、自主学習の質が上がった。

各学年の家庭学習内容

１年	国語：音読（読書）・漢字ドリル（文字ノート）・詩や言葉（発声）の音読プリント 算数：計算カード・計算ドリル・算数プリント その他：あのねノート・（自主学習）・ドリルパーク配信（3学期より　1週間に1回週末）
２年	国語：漢字ドリル・音読・寺子屋プリント 算数：計算ドリル・算数プリント・九九・寺子屋プリント その他：自主学習・作文・ドリルパーク配信
３年	国語：音読・漢字ドリル・漢字プリント 算数：計算ドリル・算数プリント その他：自主学習・作文・ドリルパーク配信
４年	国語：漢字ドリル・音読・百人一首 算数：計算ドリル・算数プリント・寺子屋プリント その他：自主学習・ドリルパーク配信（週末）・交かんノート
５年	国語：音読・漢字ドリル・漢字ノート・国語プリント 算数：計算ドリル・まんてんスキル・算数プリント その他：自主学習・ドリルパーク配信（土日）・交かんノート・今日の１問配信（２月から平日）
６年	国語：漢字ドリル・漢字ノート・音読 算数：計算ドリル・まんてんスキル・算数プリント その他：自主学習・ドリルパーク配信・学習の振り返り等交流

（４）【全国学力学習状況調査やみえスタディ・チェックの実施】
〇全国学力調査の問題を全職員で解いたり、採点作業を分担したりできた。
〇本校の児童の課題改善に向けた取り組みを計画できた。
〇3 年間分の学調の過去問を、少しずつさせて解説することで慣れることができた。

3　つながりを深める仲間（学級）づくり

（１）【子どもたちの実態を把握】
〇月１回の児童情報交流会を設けることで、学年をこえて児童理解を図ることができた。気づかなかった児童の良さに気づき、多面的・肯定的に見るきっかけにもなった。

（２）　【関わり合う活動】
〇全校でのたてわり班活動が充実していたと思う。また、低・中・高学年で活動や学習をするときにもたてわり班を活用していることも多く、つながりも深まった。

【次年度に向けて】
★低学年のうちは、自分での課題の設定は難しいため、こちらから課題を提示して、選択させることも必要になってくる。
★低学年の段階では、学期に一回は重点教材を決めて、協働学習に取り組むようにしていくといい。教えるべきことは教える時間も保障していきたい。
★CD 層やなかなか自分から入れない子への支援・教材事前準備が必要である。
★協働学習を進めるための**話型を低学年から**引き継いでいく。
★反応、返し、アドバイス、理由を聞くことをする。学活・生活・総合などで、まず練習から。
★低学年からふりかえり（◎〇△）の書き方を練習していく必要がある。
→大事な言葉を使って書けている子を紹介し、価値づけていく。
★ルーブリック（S・A・B）の設定の難しさ→研修内容の一つにしてもいいかも

★パソコンを有効活用するためにも、6年間を見通した系統的なICT学習を計画する。
★低学年からオクリンクプラスをどんどん活用していく。（高学年も）
★ICTを授業の中で活用してくために、ICT支援員に活用方法を相談していく。
★アナログで学習するところ（ノートを書く）とICTを活用して学習するところを考え、メリハリをつけていく。
★学習道具は定期的にチェックを行い、ルールの確認を行う。
★休み時間におけるパソコンの使用についてのルールを全校で統一する。
★タイピング、プログラミングは、ソフトをしぼるなどルールが必要
（学習で使っているという意識）
★連絡帳も３年生２学期頃からパソコンへ移行してもいいかも
★来年度も「寺子屋プリント」を全学年で取り組む。（算数）
★週末ドリルパーク配信を全校でしていく。
★平日の家庭学習でのクロームブックの活用の仕方を考えていく。
★各学年で週の朝のメニュー（ワークシート、読書、漢字、作文、プリント（主語・述語）など）を決め、校内時間割に表記する。
★読む・書くワークシートなど週１回必ず行う。
★プリント学習の際、低学年と高学年で日にちを分けられるといい。
★子どもたちの理解力を把握するために、計算ドリルの答えは外したほうがいい。
★いいとこ見つけ（低学年）、ポジティブメッセージカード（高学年）を続けていく。
→全校に見えるように１F廊下に掲示をする。
★まずは学級作りが大切である。言ったことを受け止めあえる関係をつくる。否定的な言い方をしない。
★間違いを恐れずに答えられるように、間違いは悪いことではないということを伝えていく。
ほめる。絵本「教室はまちがうところだ」の読み聞かせを行う。

２　研究授業

〇全職員が年１回以上の公開に取り組み、なるべく公開時期が重ならないように調整できた。
〇校内研修の中に、他校の研究発表会の還流や先進校視察の報告を多く取り入れたことで、指導案の回覧では気づけないことをたくさん学べた。
〇椿小学校の発表をきっかけに、中学校区での連携の大切さに改めて気づくことができた。
△指導案の形式を見直し、本時メインの指導案にしてほしい。（単元について・児童について等をもっと簡略化する。）
△指導案の形式を見直してほしい。

★来年度も低・中・高の３本 or 低・高の２本の全体研、学年部研に取り組む。
★支援案にかえ、形式なども見直していく。

３　学校教育全体で取り組む活動

【言葉を育む活動】
〇読み聞かせは感想を伝える時間を必ず確保する。自分の言葉で伝える、場に応じた話し方の練習。

【読書活動の充実】
〇読書ボランティアの読み聞かせで毎回楽しい本を選んでもらえてありがたかった。
〇毎日読み聞かせ、担任のおすすめ本紹介を行うことで、子どもたちが本に興味をもつきっかけを作ることができた。

〇図書委員会で楽しく読書に親しむ企画を考えてくれた。
〇週に１回図書の日を設けて、高学年も図書館に足を運ぶように促すことができた。
〇３学期頃から１・２年生に朝の読み聞かせを行ったりすることで意欲的に読書活動に取り組むことができた。
〇４年生が毎日読み聞かせに来てくれることで、落ち着いて聞くことができ、感想もどんどん言えるようになってきた。楽しみにしていた。
〇市町の図書館で借りた本を学級に置くことで、意欲を高めることができた。
△教室へ教師が図書館の本を何冊か持ち込むとき、バーコード認証をせずに持ってきてしまった。
→カウンターに各クラスのバーコード一覧が貼ってあるとありがたい。

【ノート指導】
〇ドキュメントやスライドを活用したので、ほとんどノートを使用しなかった。

【学習道具、学習規律】
〇学習道具としてのパソコンの活用ができている。

【その他】
△クロームブックを使うために拡張天板を付けたいが、教室がせまくなるため付けることができない。→来年度つける。

【次年度に向けて】
★図書館に児童・クラス・教員用バーコードを置いておく。
★読書のきろくの活用方法の見直し
（読書のきろくの数での表彰はなくす）